

2010年6月13日仏ル・マン発行プレスリリース意訳

2010年ル・マン24時間で、ミシュラン装着車13連覇！

使用タイヤセット数を減らしつつ、最速ラップとレース走行距離の歴代記録を更新

6月12日から13日にかけて開催されたル・マン24時間耐久レースにおいて、ミシュランの新しい耐久レースタイヤを装着したチームが、使用タイヤのセット数をこれまでより少なく抑えながら、ファステストラップと走行距離の新記録を樹立しました。

ミシュランのパートナーチームは、ル・マン24時間でミシュランタイヤ装着車による13年連続総合優勝を果たしたばかりでなく、LMP1、LMP2、LMGT1とLMGT2の全4クラスで優勝を飾りました。ミシュランは、世界で最も有名なレースの一つであるル・マン24時間で、速さと耐久性を兼ね備えたタイヤを提供することによりパートナーの成功に貢献するという目標を果たしました。

2010年用のタイヤの開発は1年近く前から始まりました。2009年のレースのチェッカーフラッグが振られた直後から、ミシュランは新しいタイヤのデザインを開始しました。ミシュランはLMP1クラスのパートナーたちに非常に幅広いレンジのスリックタイヤを提案し、2010年初頭から行われたさまざまなテストやレースを通じて、チームは選択を進めました。

LMP1クラスのチームがそれぞれのマシンの特徴とドライバーのドライビングスタイルに合わせて選んだタイヤは2グループになりました。タイヤの選択は2グループに分かれたとはいえ、これらはどちらも、速さと安全性を保ちながら4スティントを走りきることができる耐久性を備えたタイヤ、つまり650km以上の距離を平均時速240kmで走行することを目指したタイヤです。レースで使用するタイヤの本数を減らすことは、レースのために製造し、サーキットへ運ぶタイヤの本数を減らすことにつながります。これによって、ミシュランは環境への貢献も目指しました。

ミシュランの新タイヤを装着したT・ベルンハルト/R・デュマ/M・ロッケンフェラー組 (Audi R15 TDI) が、ル・マンで初の総合優勝を成し遂げました。ミシュランとアウディがこの伝統のレースで共に優勝を飾るのは9度目になります。

ミシュランのモータースポーツ部門総責任者であるニック・ショロックは、「アウディ・チームに心からお祝いを申し上げます。また、同じく私たちのパートナーであるプジョーにとっては、今年のレースは大変困難なものとなってしまいましたが、その健闘を称えたいと思います。ミシュランは、アウディが2000年にサルテ・サーキットで初優勝した時も、2006年にディーゼルカーとして初優勝を飾った時も、パートナーとして共に勝利を祝いました。ミシュランにとって、耐久レースは実地で技術テストを行える場として貴重です。これによって、新技術を市販タイヤ

PRESS INFORMATION

に投入する前に検証することができました。その一例が、今年発売した MICHELIN Pilot Sport 3 です。また、ミシュランは自らに課していたプロトタイプのマシンで4スティントを安定して走行できるタイヤを提供するという目標を達成することができました」と語りました。

もっともエネルギー効率の高いチームを表彰する「ミシュラン・グリーン X・チャレンジ」では、ミシュランタイヤを装着する LMP2 クラスの Strakka Racing の HPD-ARX 01c が優勝しました。